

認証評価結果の条件に対する改善報告書

平成 28 年 7 月 1 日

1. 大学名：群馬パース大学
2. 認証評価実施年度：平成 23 年度
3. 「条件」及び関連する「改善を要する点」の内容

【条件】

自己点検・評価を恒常的に実施するとともに、その結果を教育研究をはじめ大学運営の改善・向上につなげるシステムを構築し、平成 28(2016)年 7 月に進捗状況を含めて報告書（根拠資料を含む）を提出すること。

【改善を要する点】

基準項目：7－3

- ・大学独自の自己点検・評価について、開学以降に実施されていないので改善が必要である。

4. 改善の経過及び結果

前回受審より以下のような体制・方法を設定した。

1)実施体制

自己評価を恒常的に実施するために、教授会のもとに評価委員会、そのもとに自己評価・認証評価部会を置き、同部会が「自己評価・認証評価の実施」および「自己評価・認証評価に関する報告書の作成及び公表」に係る作業を行う体制を構築した。

2)実施方法

(1) 枠組みの設定と不断の更新

自己評価活動とその結果を确实・最大限本学の教育水準の改善・向上に還元するため、またそれらが常に最適・最善のものとなるよう不断に見直していくため、以下の 5 つの事項に沿って自己点検・評価を実施した。

- ①評価項目は、基本的項目として認証評価機関の評価項目を用い、これに本学の使命・目的の追求達成に必要な項目を独自に設定する。(次項)
- ②評価項目を認証評価に合わせつつも、本学にとって必要な自己評価とするため、本学独自の成果の指標と実施時点の目標を根拠に基づいて設定する。
- ③認証評価で求められるデータを基本に、各項目の評価に必要なデータ内容と責任部門を指定する。
- ④各担当部門からの入力状況を把握管理するため、「自己評価データベース」の管理者、部門ごとのデータ入力責任者と作業者を決定し、データの収集蓄積システムを構築する。
- ⑤評価項目ごとに本学の状態を判断するために、本学なりの評価の着眼点と

本学なりの基準を設定する。

(2) 毎年1回のデータの収集と「自己評価データベース」への蓄積

原則、月1回開かれる学園運営会議、教授会、各委員会・部会の議事録は、それぞれ学内データベースサーバーに保存している。その他、評価基準を基にした学内基準を各委員会等に振り分け、必要なデータを適宜保存している。保存されたデータは評価委員会でチェックし、毎年度ごとに整理している。

(3) 「群馬パース大学年報」の作成

収集データのうち、毎年公表していくべきものについて、整理・分析をした上で、「群馬パース大学年報」としてまとめ、刊行していく。

(4) 自己評価の実施と自己点検評価書の作成

蓄積されたデータを評価基準に照らして、一定期間ごとに自己評価を実施する。評価結果案は、評価作業を担う自己評価・認証評価部会から評価委員会を通じて教授会に報告し、学長の承認を得て確定し、自己点検評価書にまとめる。第一回受審の平成23年度からの3年間についての自己点検評価の結果を平成26年度に「自己点検評価書」としてまとめ、ホームページを通して広く公表している。

5. 根拠資料

1. 学則（平成28年5月1日現在）
2. 組織図（平成28年5月1日現在）
3. 自己評価・認証評価部会議事録（平成23年4月～平成27年3月）
4. 評価委員会議事録（平成24年4月～平成27年3月）
5. 教授会議事録（平成24年4月，平成26年7月）
6. 平成26年度自己点検評価書（平成26年6月作成・公開）
7. 群馬パース大学 2014年度 年報
8. 「自己点検評価書」公開状況（平成28年6月30日現在）